

釧路の水産業

釧路市の漁業とは？

初めに、釧路の漁業と言えばサンマ、イワシなどで有名ですね。そんな釧路市の漁業の始まりは江戸時代の末期から明治の始めにかけて**海岸のコンブ**を採ることから始まったと言われています。その後、多くの漁業者が釧路市に集まったことや船の構造技術が進歩していったことから釧路市の漁業は着々と発展していきました。このように、様々な歴史を経て現在の釧路漁業があるのです。



水産加工業の歴史

釧路市の水産加工業は北洋漁業のサケ・マスやスケトウダラを基盤として発展してきました。昭和50年代から平成3年頃までは、**マイワシ**の水揚げが急増し加工生産量全体の**60%**以上を占めていました。イワシの水揚げが減少した現在は加工原魚の不足分を他の港や外国から確保するなど、各事業所が直接加工原魚を移入、輸入する形で手当しています。



釧路水産業の歴史

水産業の歴史

現在の釧路漁業に至るまで

明治時代末頃 沿岸漁業の時代	主に昆布などを採取。まだ船にエンジンが付いていなかったため遠くへ行き魚を捕ることができなかった。
大正時代 沖合漁業	船にエンジンが付く。また魚をとる機械の使用が可能となり漁業は発展。
昭和40年 北洋漁業	北洋漁業が盛んになり釧路市の水揚げ量は急増した。その結果、昭和44年から52年までの9年間、釧路市の水揚げ量は日本一となった。
昭和52年 200カイリの時代	この時代に「自分の国の沿岸から200カイリ（約370km）までの海では、外国の漁船は勝手に魚をとってはいけない」という決まりができ、翌年釧路市の水揚げ量は減少し全国2位に。だが釧路の近海でイワシが大量にとれるようになったため翌54年には再び水揚げ量日本一に。
平成4年～現在	水揚げの大部分を占めていたイワシが急にとれなくなってしまい、釧路市の水揚げ量は低迷を続け再び日本一にはなれず・・・。

水揚げ日本一！

